

競輪・オートレース業界の 現状と課題

令和7年5月22日

経済産業省

製造産業局車両室

目次

- 1.競輪の状況について
- 2.オートレースの状況について
- 3.競輪・オートレースの補助事業について
- 4.ギャンブル依存症対策への取組について
- 5.第3次中期基本方針策定に向けて
ご議論いただきたい点

1.競輪の状況について

2.オートレースの状況について

3.競輪・オートレースの補助事業について

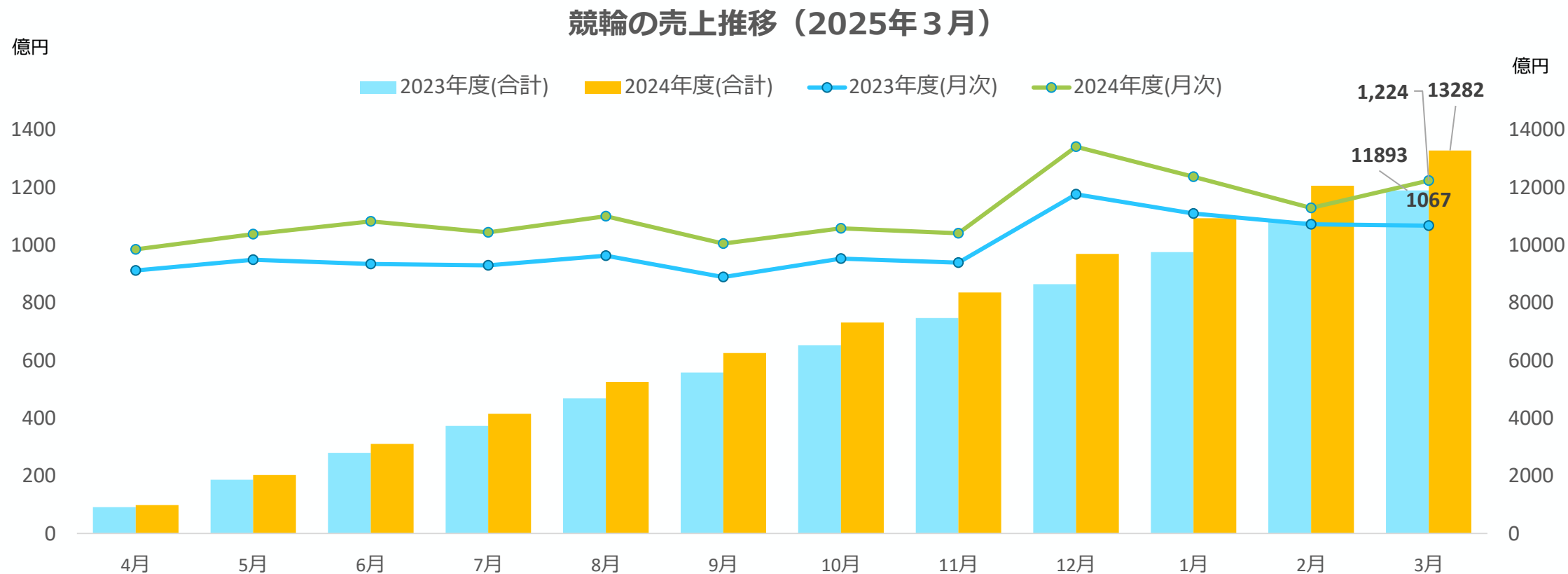
4.ギャンブル依存症対策への取組について

5.第3次中期基本方針策定に向けて

ご議論いただきたい点

競輪の売上状況（2025年3月時点）

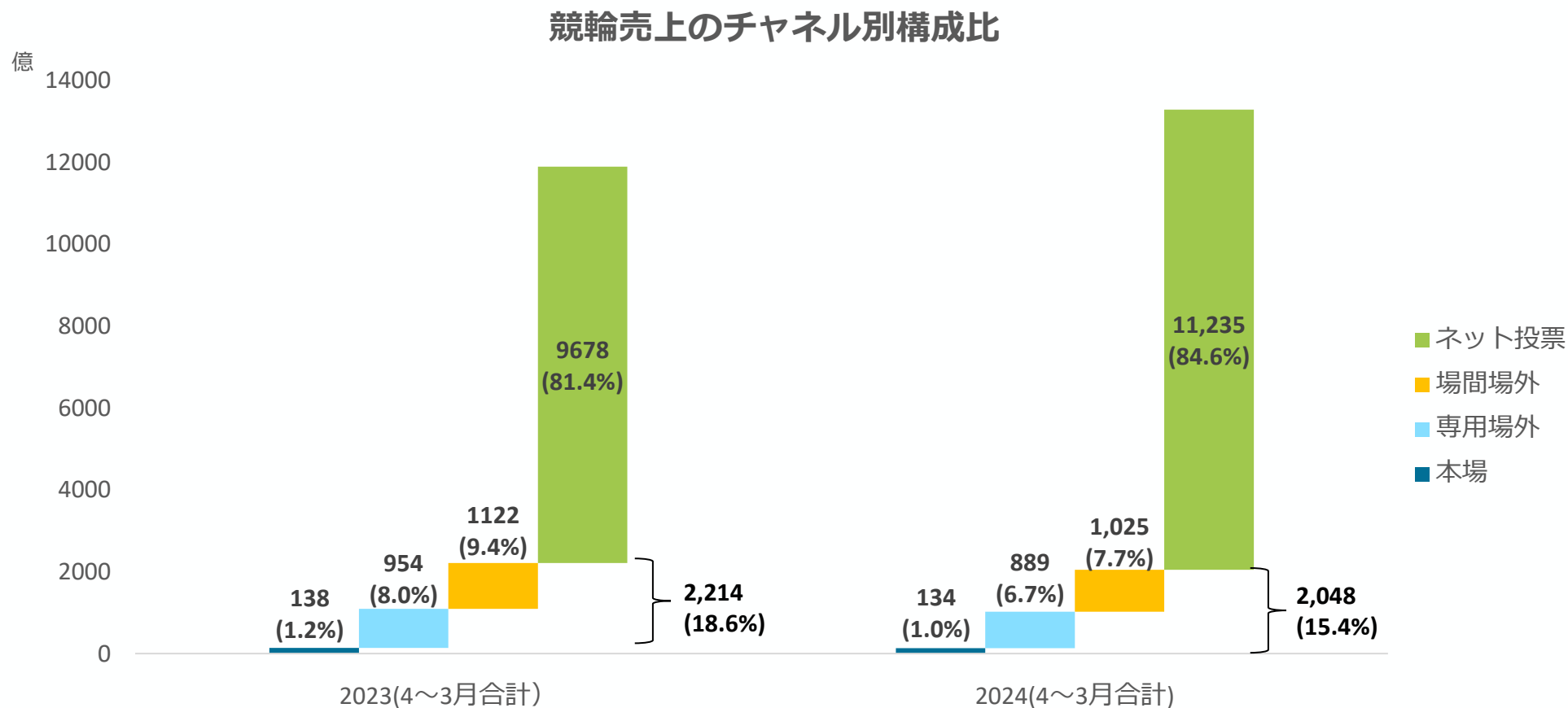
- 2024年度(2025年3月時点)の合計売上額は1兆3,282億円(対前年同期比+11.7%,グラフ右軸)。
- 第2次中期基本方針の2025年度売上目標1.25兆円を達成。
- 2025年3月の月次売上は1,224億円(対前年同月比+14.7%,グラフ左軸)。



(資料) 開催情報等を参考に車両室作成

競輪の売上状況（チャンネル別）

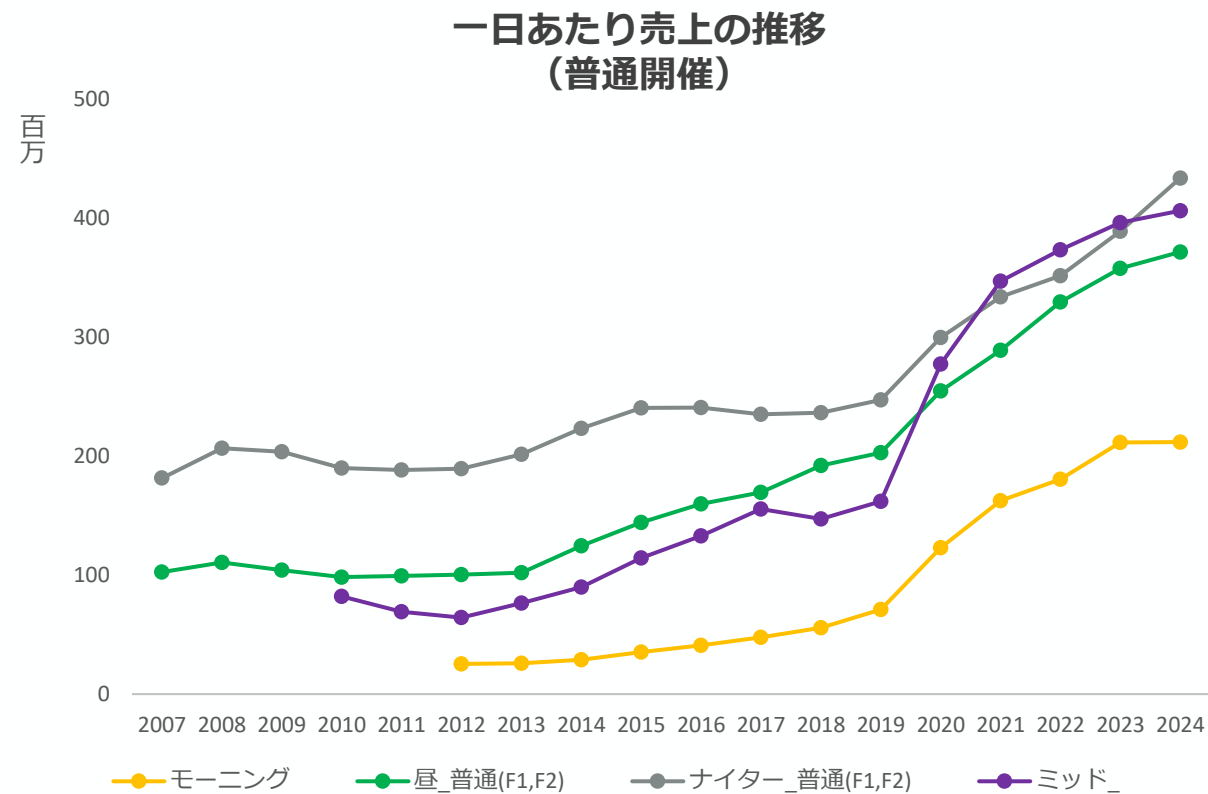
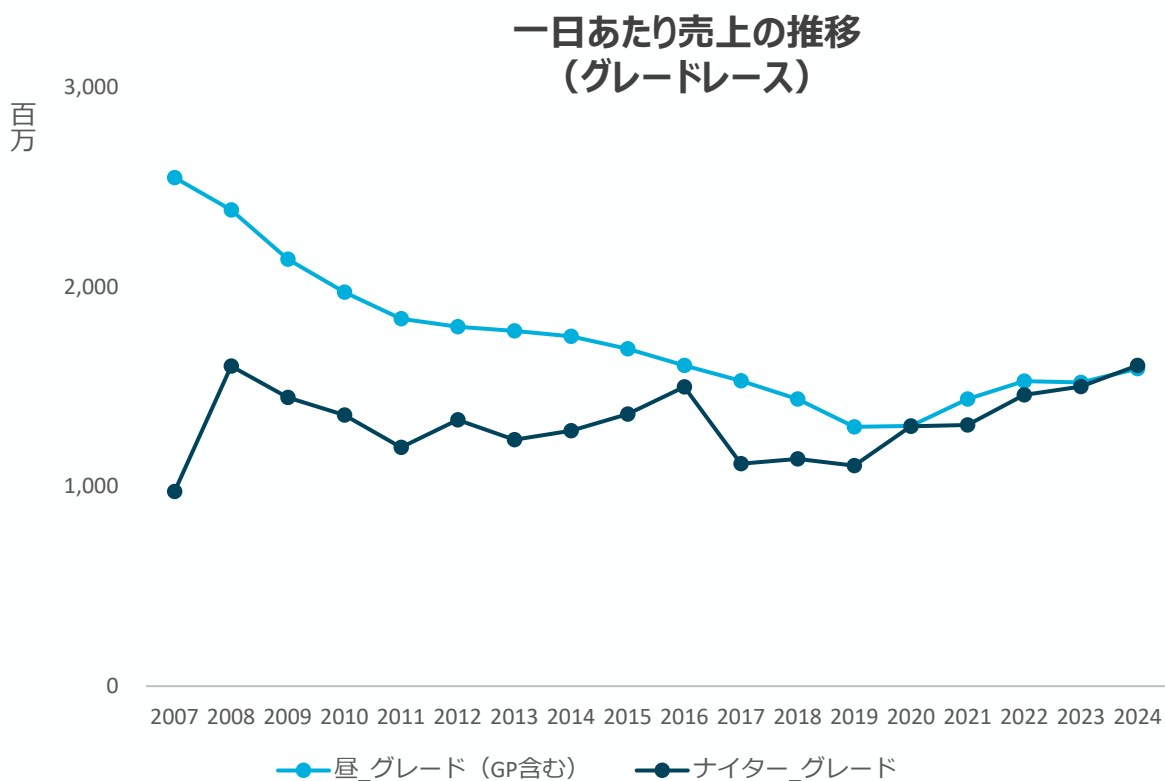
- 競輪事業の売上成長を牽引している車券発売チャンネルはインターネット発売。
- 本場・専用場外・場間場外のリアル発売チャンネルの売上が減少する一方、インターネット発売の売上は約1,550億円程度の増加、売上シェアも3%超増加。



(資料) 開催情報等を参考に車両室作成

競輪の一日あたり売上の推移（開催区分、時間帯別）

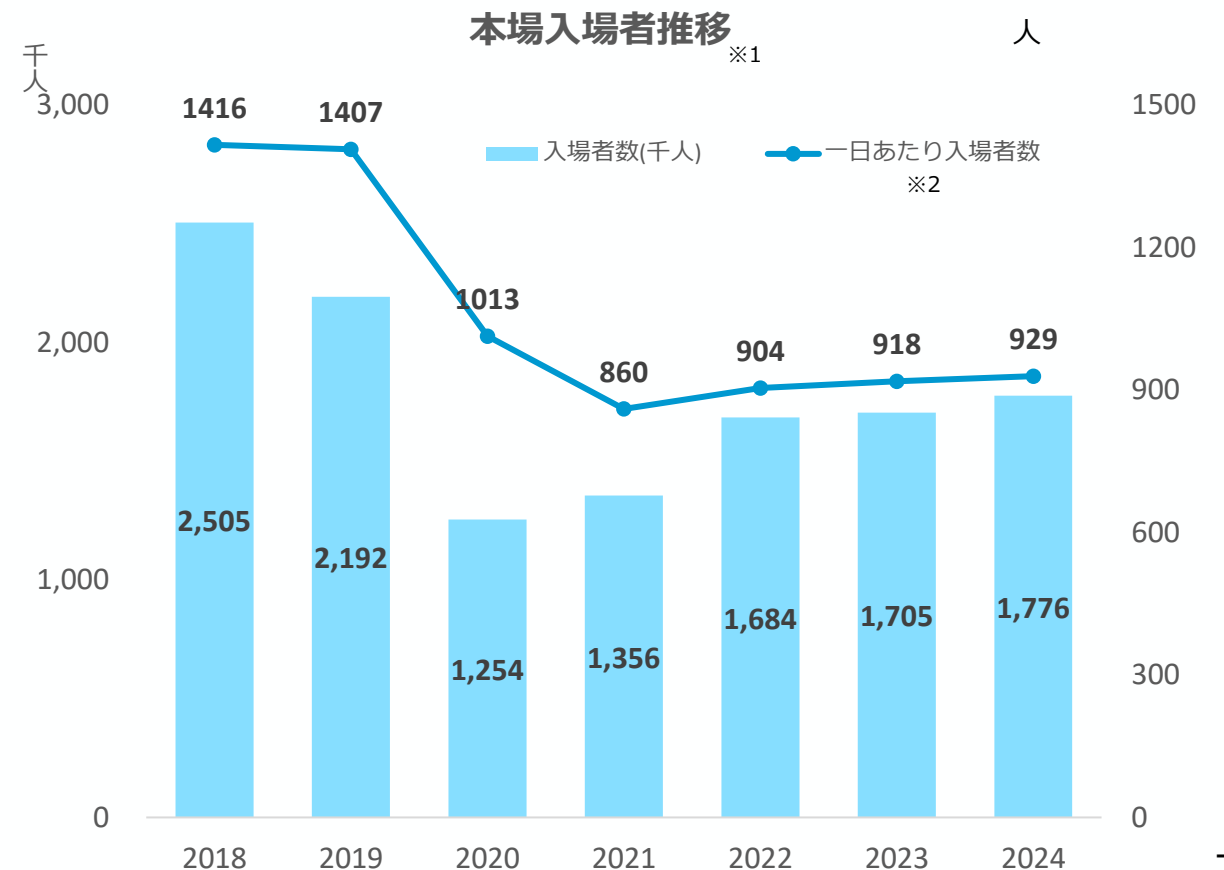
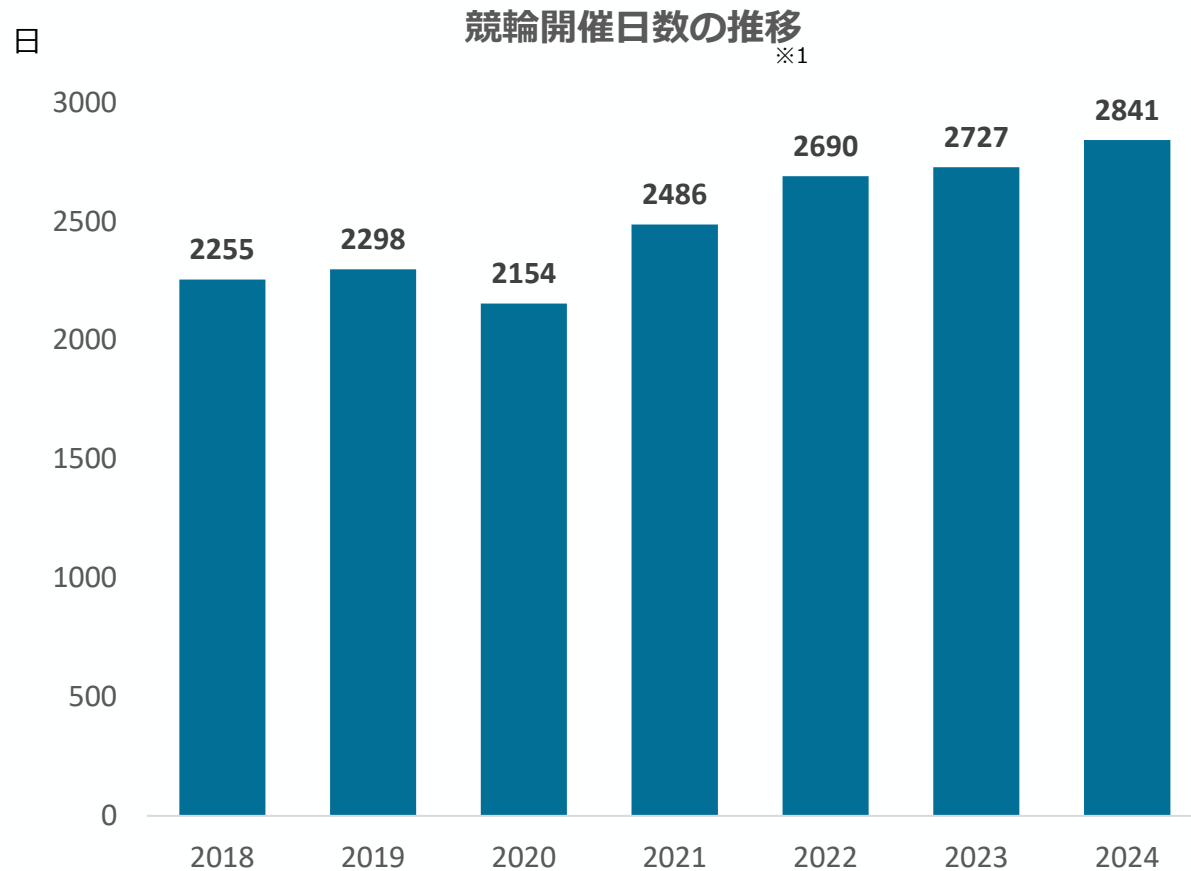
- 競輪の開催区分別一日あたり売上の推移をみると、昼開催のグレードレースは新型コロナ禍まで減少した後、回復傾向。
ナイター開催のグレードレースは新型コロナ禍以降に増加し、昼開催のグレードレースと同水準の売上。
- 普通開催については、どの開催区分・時間帯も新型コロナ禍以降増加。特に近年開始したモーニングやミッドナイトは大きく成長。グレードレースの売上規模には及ばないものの普通開催の売上増加は競輪売上全体の増加に寄与している。



(資料) 開催情報等を参考に車両室作成

競輪の開催日数及び入場者数の推移

- 競輪の開催日数は新型コロナ禍の影響があった2020年に過去最も開催日数が少なくなったものの、2020年以降は開催日数を増加し、新型コロナ禍以前よりも多く開催。
- 競輪場の入場者数は新型コロナ禍の影響により無観客開催を行っていた2020年を底に徐々に増加しているものの、新型コロナ禍以前の水準には至っていない。
- また、新型コロナ禍以降、無観客で開催するミッドナイトレースも増加してきている。



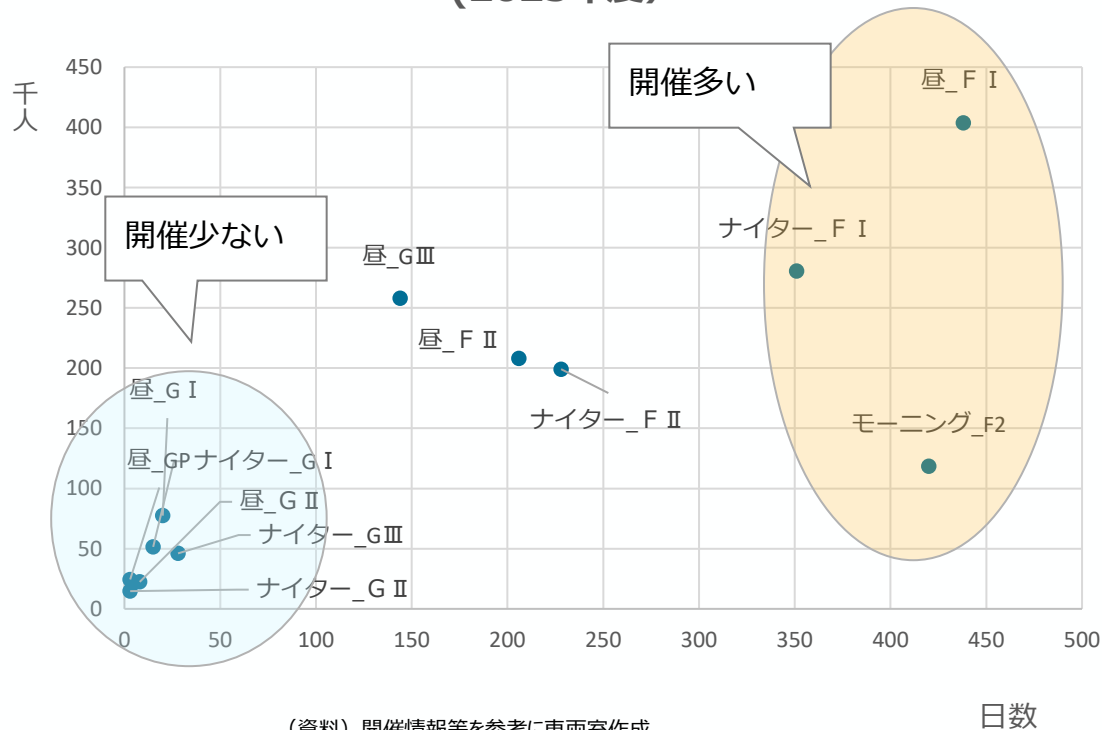
※1：競輪開催日数は250競走を含み、本場入場者数及び1日あたり入場者数は250を含まない。

※2 一日あたり入場者数は競輪開催日数のうち有観客開催のみを対象として算出

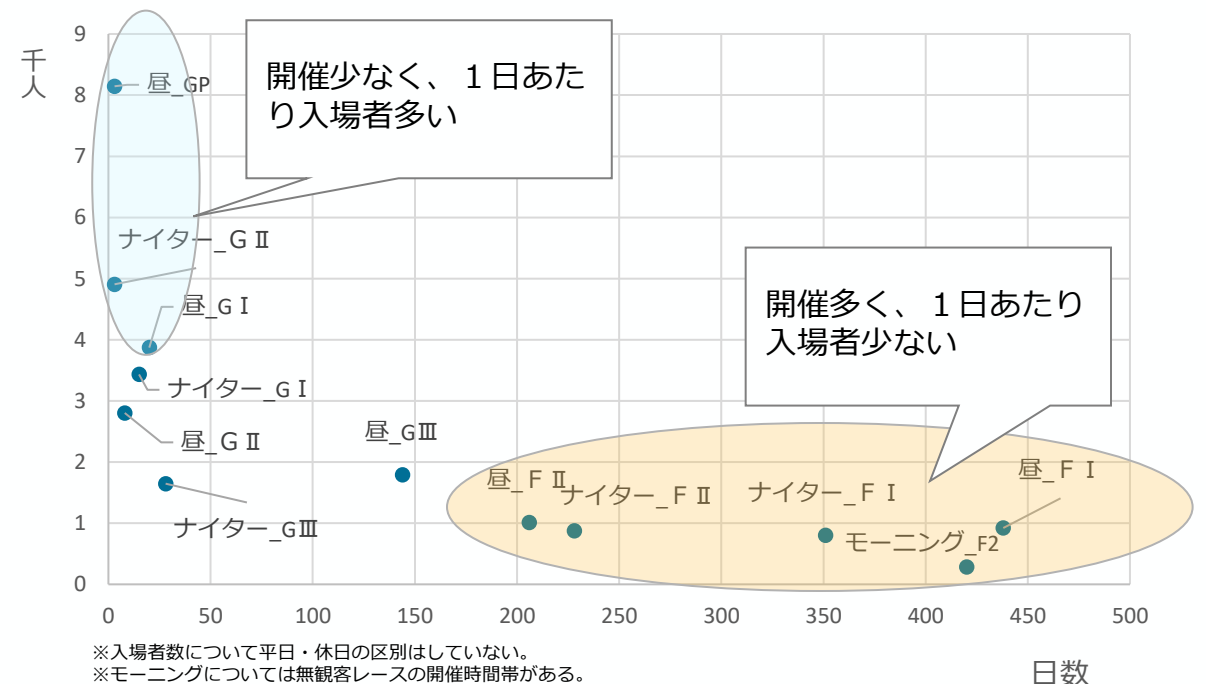
(参考)競輪の時間帯別・開催区分別の1日あたり入場者数の状況

- 競輪場への時間帯別・開催区分別の入場者数をみると（左図）、年間開催日数の多い昼開催のF 1の入場者数が最も多く、ついでナイター開催のF 1、昼開催のGⅢとなっている。
- 1日あたりの入場者数をみると（右図）、開催日数が少なく希少性の高いグランプリやナイター-GⅡをはじめとしたグレードレースは入場者数が多い。
- 夕方から夜間の開催により来場者を期待するナイターは、昼開催の入場者数と同程度となっている。

時間帯別・開催区分別の
入場者数合計／開催日数の分布図
(2023年度)

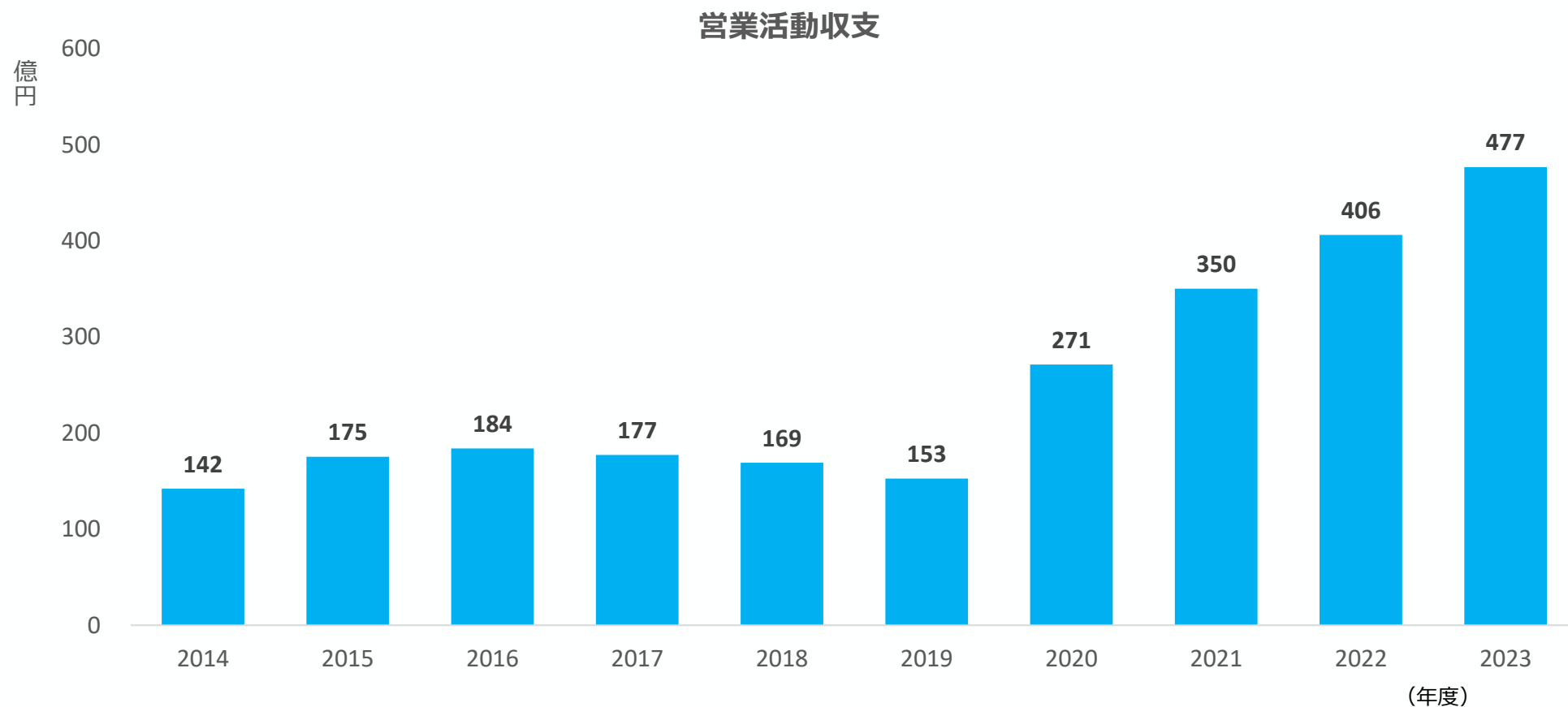


時間帯別・開催区分別の
1日あたり入場者数／開催日数の分布図
(2023年度)



競輪施行者全体の営業活動収支

- 売上拡大に伴い、2020年度以降、営業活動収支も増加。
- 売上低迷期に施設改修が十分行われてこなかったことから、引き続き大規模改修する動きがみられる。その際、競輪場の敷地等を活用し、地域の憩いの場や賑わい・レジャーの場として整備する動きもみられる。



(資料) 施行者収支決算書資料を基に車両室作成

(参考) 各地における競輪場の再整備計画①

- 売上低迷期において施設改修を十分に進めてこられなかったことから、足許では競輪場を大規模改修する動きが増加。
- 同時に、競輪場の敷地等も活用し、地域の憩いの場や賑わい・レジャーの場も整備する動きも多くみられる。

<大規模改修の動きがある主な競輪場>

競輪場	改修状況
広島競輪場	競輪とBMXなどのアーバンサイクリングスポーツが融合する市民公園「アーバンサイクルパークス広島」として再整備。
佐世保競輪場	老朽化したメインスタンドを全面改修し、近隣に憩いの広場などを整備する予定。
立川競輪場	既存施設の解体工事、市民開放エリア等の整備、正門棟、ステージ棟、トイレ棟及び裏門棟の新設、第2スタンド棟の改修。
名古屋競輪場	競輪場の東広場にBMXレースコースなどを整備し、2026年アジア競技大会の会場となる予定。
京都向日町競輪場	施設の全面改修にあわせて競輪場内の余剰地に屋内スポーツ施設（アリーナ）を新設する予定。
高松競輪場	競輪場の余剰地に、サイクリングツーリズムのハブとなるホテルを核として、自転車を中心としたイベントができる環境や、カフェ等のテナント、家族連れが楽しめる広場や遊具等を検討中。
四日市競輪場	外向投票所を新設し、投票所内には隣接する公園の利用者も利用しやすいようにコンビニエンスストアや飲食店を配置する。外向投票所前にはキッチンカーのスペースを確保し、イベントが開催できるように芝生広場も整備する予定。
久留米競輪場	老朽化した施設（バンクを除く）を「コンパクト化された施設」、「レース観戦を楽しめる施設」、「多様な来場者も楽しめる施設」の整備方針に基づきリニューアルする予定。

(参考) 各地における競輪場の再整備計画②

- 地域の創成・活性化に寄与する賑わいある競輪場を目指し、各地で再整備を計画。



【広島競輪場】

競輪とアーバンサイクルスポーツ（※）が融合する市民公園として再整備。

（※）アーバンスポーツとサイクルを組み合わせ、BMXやスケートボード、キックバイク等、車輪がある乗り物全般を使った競技を示すものとして独自に定義したもの。



【高松競輪場】

「自転車文化を創造するハイブリット競輪場」を掲げ再整備。サイクルツーリズムのハブとなるホテルを中心に、多世代が集える広場群、自転車への興味を喚起するコンテンツによりサイクルツーリズムや自転車競技へ誘うことを方針として示す。



外観イメージ

【京都向日町競輪場】

- ・令和5年12月、京都府は向日町競輪場基本構想を発表。競輪施設・機能を集約しつつ、余剰スペースには「交流・賑わいゾーン」として、レジャーや憩いの場、スポーツ活動・防災拠点として多目的・複合的な機能をもった競輪場とする方向性が示されていたところ。
- ・令和6年3月、競輪場の敷地内にアリーナを整備する方針を京都府西脇知事が表明。



【名古屋競輪場】

- ・名古屋競輪場の東広場にBMXレースコースなどの整備し、BMXの体験会や競技を実施。2026年アジア競技大会の会場としても利用される予定。

(参考) 競輪場の多様化の流れ

- 競輪場のあり方が多様化するなか、ファミリー層を対象とした設備を導入し、20代、30代の来場者増加を見込んだ運営を行う競輪場も出てきている。

【多様化の一例：防府競輪場に隣接するKEIRIN パークの様子】

- ・「市民に親しまれ、自転車を通じた交流の輪が広がる競輪場」がコンセプト
保護者がレース観戦しながら安心して子供を遊ばせられる遊具を設置



(参考) 女子競輪選手の環境整備

- 競輪業界では女子選手が競技に集中できるような環境整備が進められている。
- 岐阜競輪場、小松島競輪場においては、女子選手対応宿舍が整備されるなど、女子選手に配慮した競輪場施設への改修が行われた。



小松島競輪場の女子選手宿舍



岐阜競輪場の女子選手専用宿泊室

大阪・関西万博への協力・出展

- 各施行者の協力の下、各地の競輪場で協賛競輪を開催して機運醸成に協力し、収益の一部を博覧会協会に提供。
- 令和3年から実施し、開催年度にあたる令和7年度も計4回の開催を予定。
- 令和6年度の博覧会協会の取組として、競輪場内でのブース出展等によるPR活動や協会幹部による自治体首長への表敬訪問、ミヤクミヤクによる競輪場立地自治体の観光地訪問等が行われた。
- 競輪業界としても大阪・関西万博へと出展し、競輪事業を通じた社会貢献やスポーツとしての競輪の魅力を発信。

博覧会協会の取組

PRブース出展



表敬訪問



ステージイベント



ミヤクミヤク来場者とタッチ



競輪業界による出展（令和7年8月8日～29日までの22日間）

イマーシブシアター



ライド体験

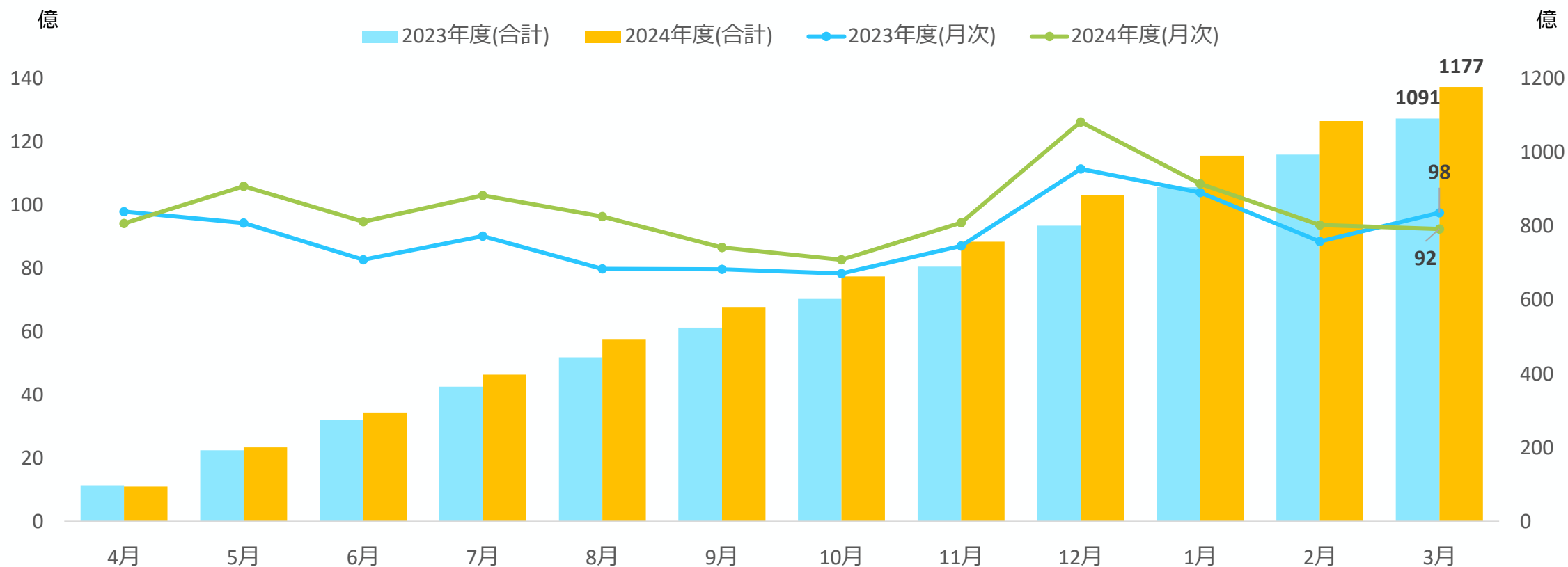


- 1.競輪の状況について
- 2.オートレースの状況について**
- 3.競輪・オートレースの補助事業について
- 4.ギャンブル依存症対策への取組について
- 5.第3次中期基本方針策定に向けて
ご議論いただきたい点

オートレースの売上状況（2025年3月）

- 2025年3月時点の合計売上は1,177億円（対前年同期比+7.8%,グラフ右軸）。
- 2025年3月の月次売上は92億円（対前年同月比-5.2%,グラフ左軸）。

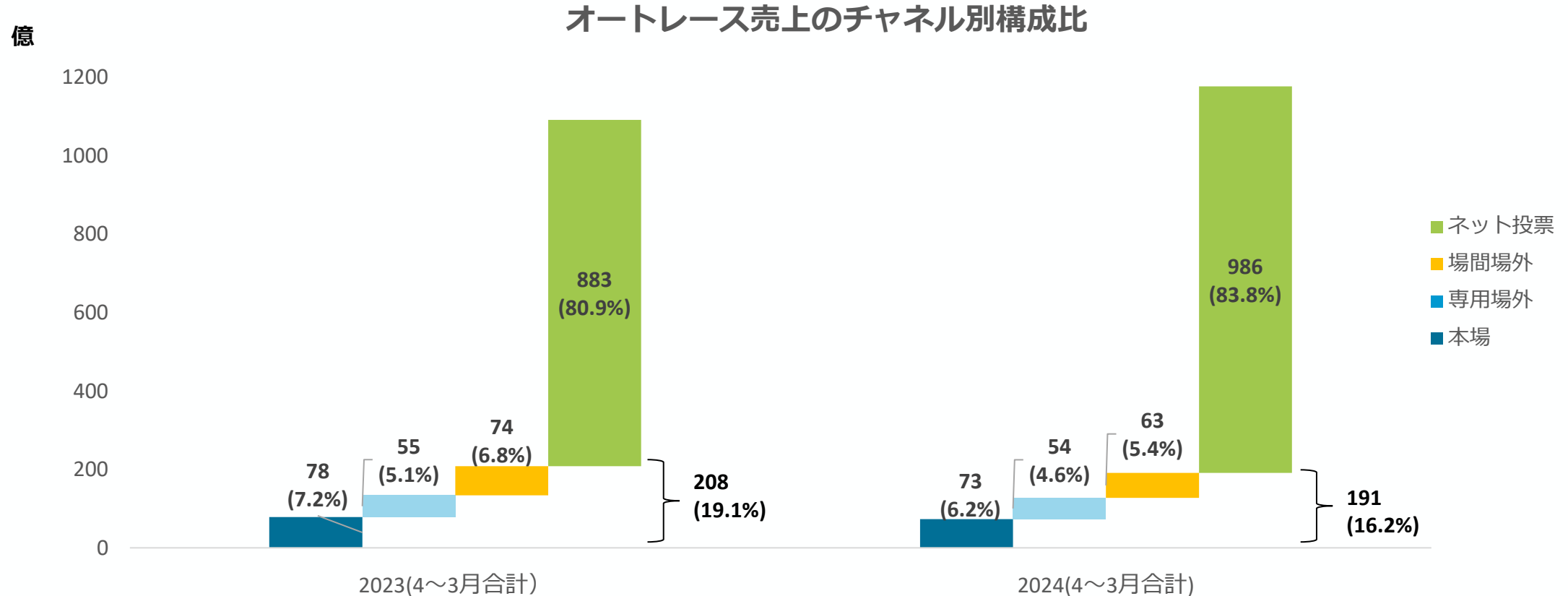
オートレースの売上推移(2025年3月)



(資料) 開催情報等を参考に車両室作成

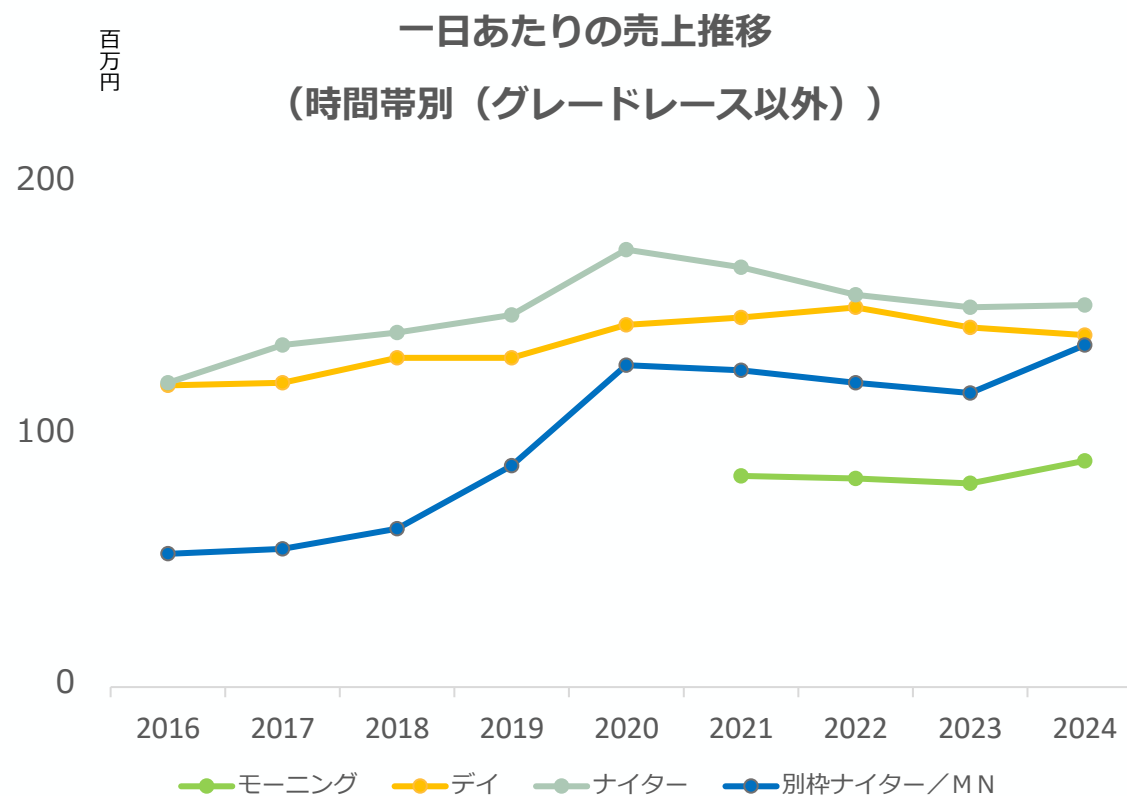
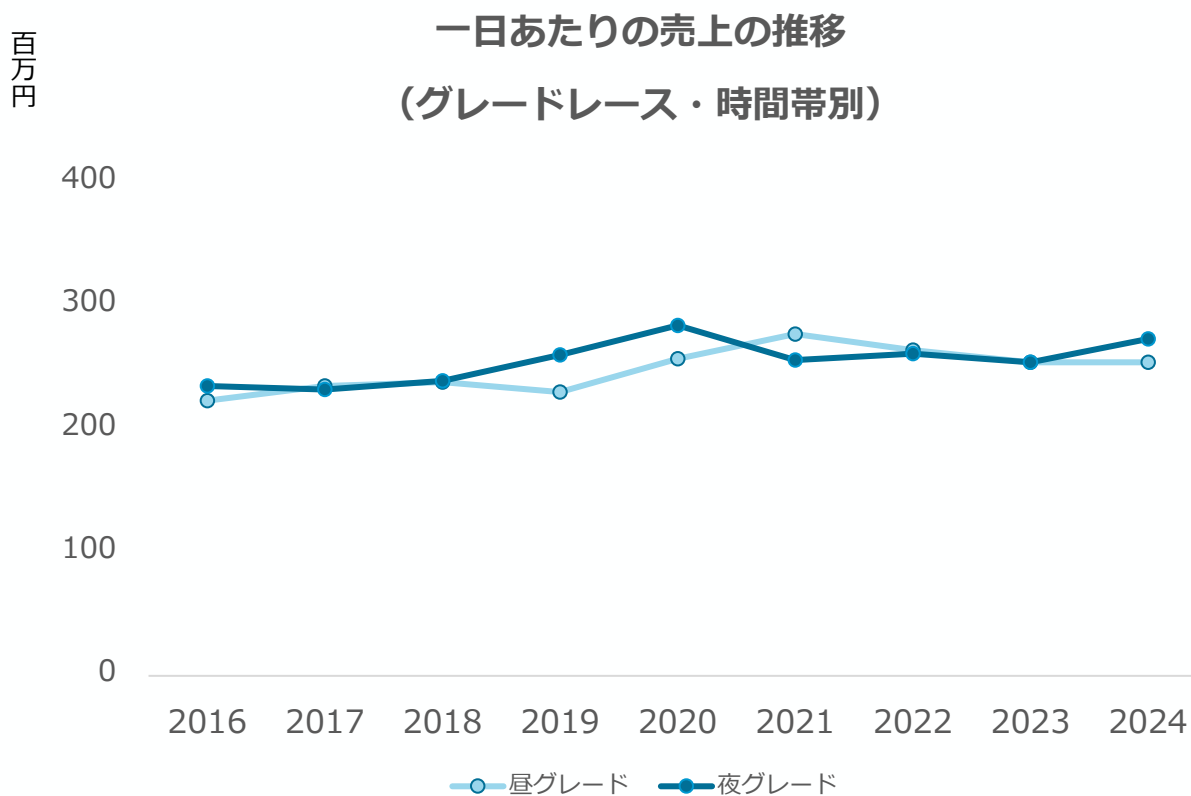
オートレースの売上状況（チャンネル別）

- オートレース事業の売上成長を牽引している車券発売チャンネルもインターネット発売。
- 本場・専用場外・場間場外のリアル発売チャンネルの売上が減少する一方、インターネット発売の売上は103億円程度の増加、売上シェアも3%程度増加。



オートレースの一日あたり売上の推移（開催区分、時間帯別）

- オートレースの開催区分別一日あたり売上の推移をみると、グレードレースは昼夜とも新型コロナ禍前後で微増。
- 普通開催については、ミッドナイト開催が新型コロナ禍前から大きく伸び、新型コロナ禍以降に開始したモーニングも一定の売上を確保。昼・ナイターの普通開催は新型コロナ禍期に増加したものの概ね横ばいの状況。

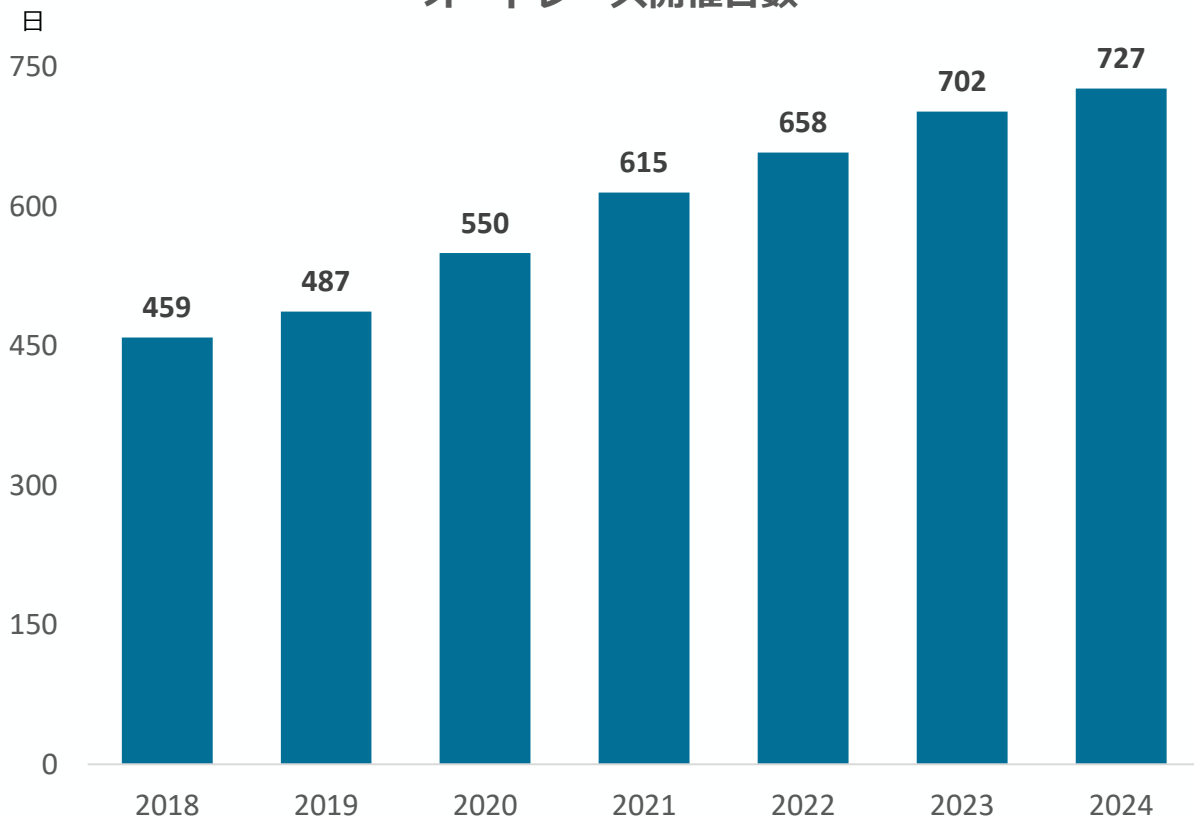


(資料) 開催情報等を参考に車両室作成

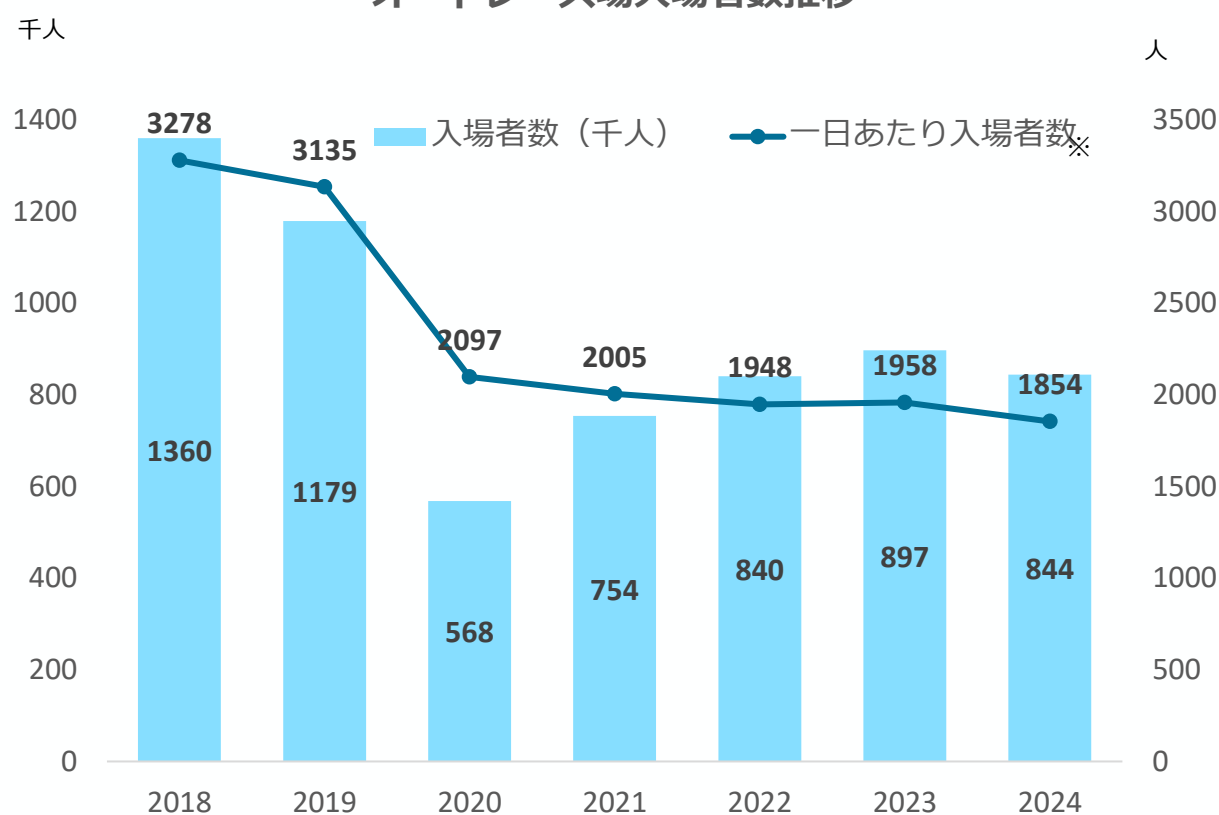
オートレースの開催日数及び入場者数の推移

- オートレースの開催日数は2018年以降順次増加。新型コロナウイルス禍においては無観客レースの開催により、開催日数を確保。
- オートレースの入場者数は新型コロナウイルス禍の影響により無観客開催を行っていた2020年を底に徐々に増加しているものの、新型コロナウイルス禍以前の水準には至っていない。
- また、新型コロナウイルス以降、無観客で開催するミッドナイトレースも増加してきている。

オートレース開催日数



オートレース場入場者数推移



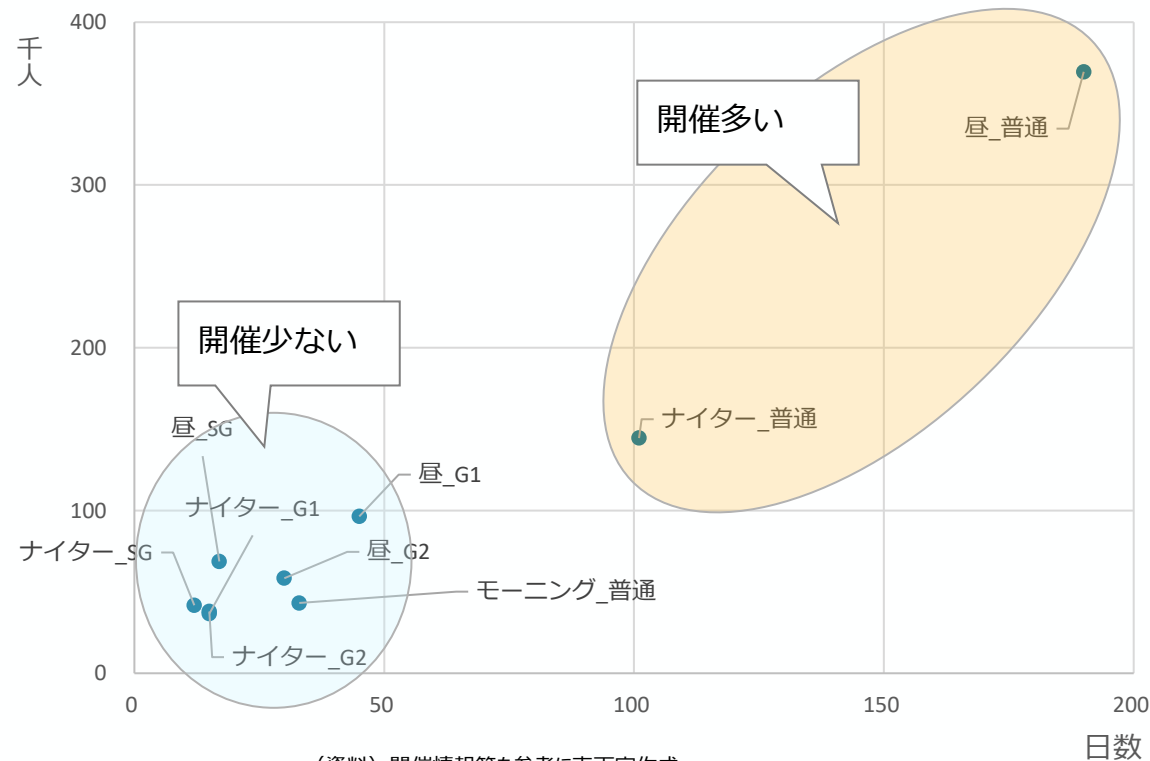
(資料) 開催情報等を参考に車両室作成

※一日あたり入場者数はオートレース開催日数のうち有観客開催のみを対象として算出

(参考)オートレースの時間帯別・開催区別の1日あたり入場者数の状況

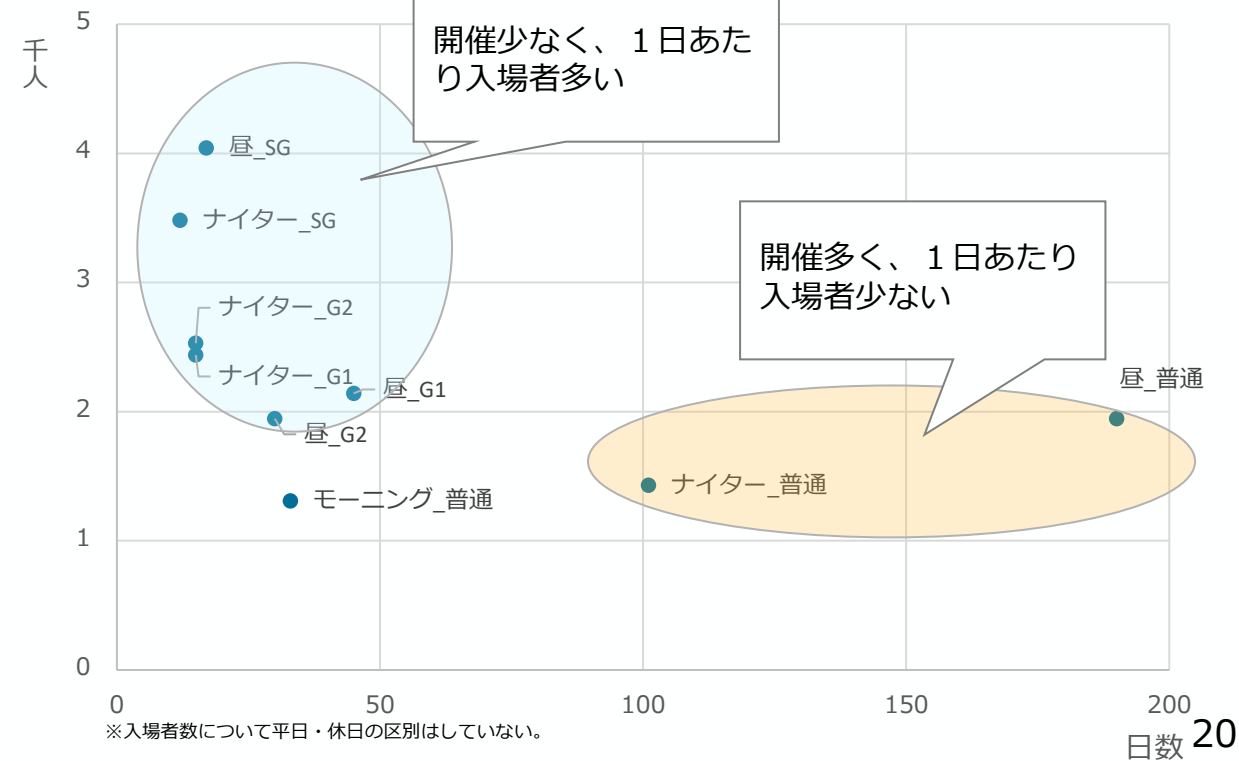
- オートレース場への時間帯別・開催区別の入場者数をみると（左図）、年間開催日数の多い昼の普通開催の入場者数が最も多く、ついで普通のナイター開催、昼開催のG1となっている。
- また、1日あたりの入場者を見ると（右図）、SGレースは1日あたり3000人を超えた入場となっている一方、G I・G IIの昼開催は2000人程度となっている。また、平日も開催するナイター普通開催の来場者は昼普通開催の1日あたり入場者よりも少ない。

時間帯別・開催区別の入場者数合計／開催日数の分布図(2023年度)



(資料) 開催情報等を参考に車両室作成

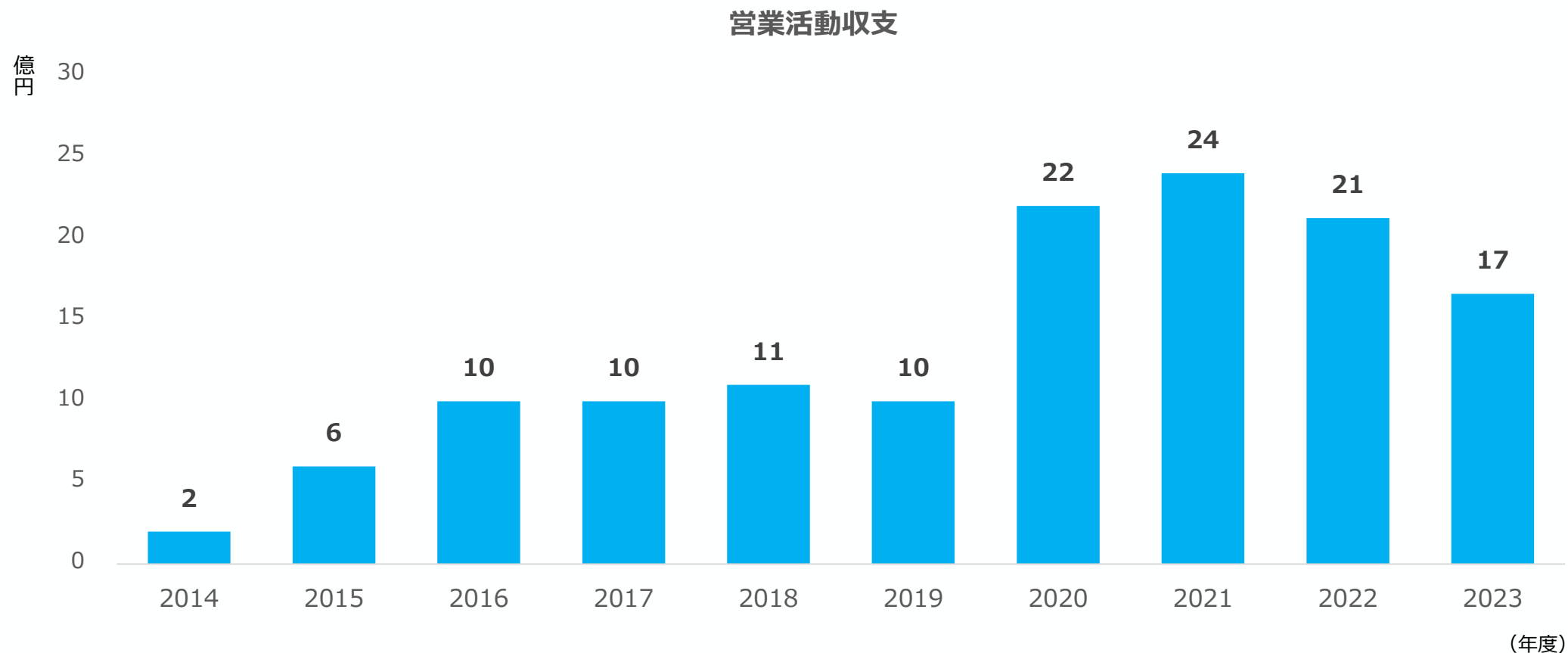
時間帯別・開催区別 1日あたり入場者数合計／開催日数分布図(2023年度)



※入場者数について平日・休日の区別はしていない。

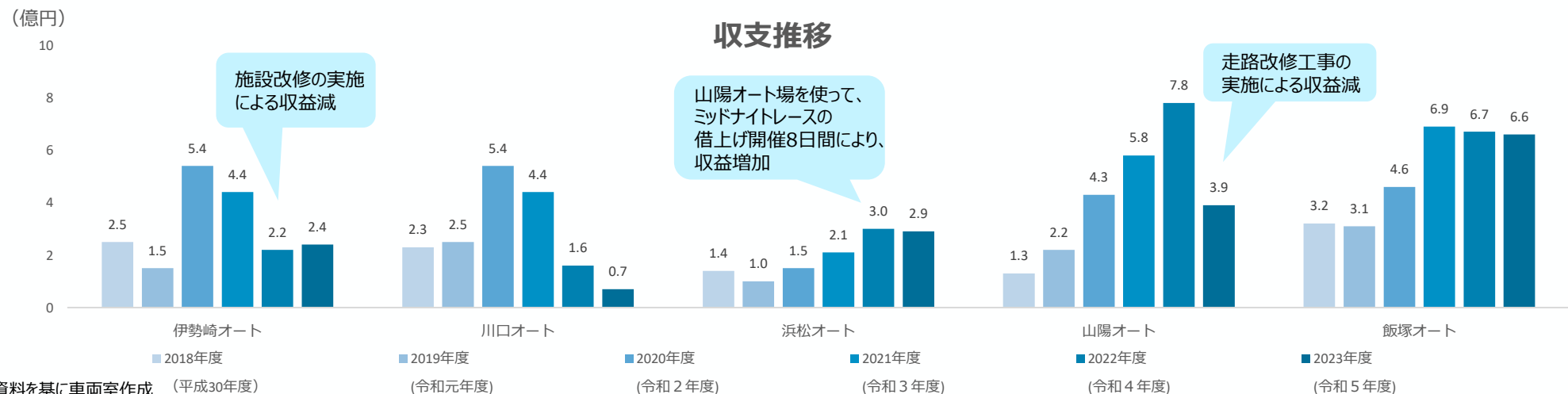
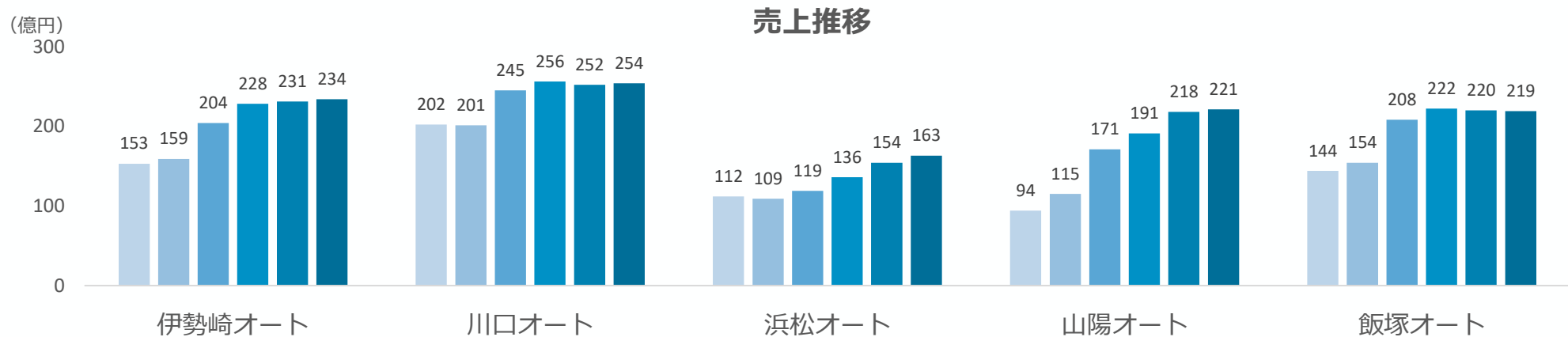
オートレース施行者全体の営業活動収支の推移

- 営業収支はインターネット発売の普及に伴い、2021年度にかけて増加したものの、足許では微減。
- 新型コロナ禍以降のインターネット発売の急速な普及に伴う発売チャネルの構成変化への対応の遅れや、開催コストの増加（民間ポータルへの車券発売委託費や有観客開催に要する費用など）が収益悪化の要因。



(参考) オートレース場別の売上・営業活動収支の推移

- 無観客開催を行っていたコロナ禍以降、インターネット発売が急拡大し、既に定着。
- 各場の売上は増加しているものの、本場発売再開に伴う開場コスト（警備や清掃など）により、特に本場での車券発売シェアの高かった川口場や伊勢崎場の収益が悪化。
- 他方、無観客で開催されるミッドナイトレースを開催する飯塚場や山陽場の収益は高水準。

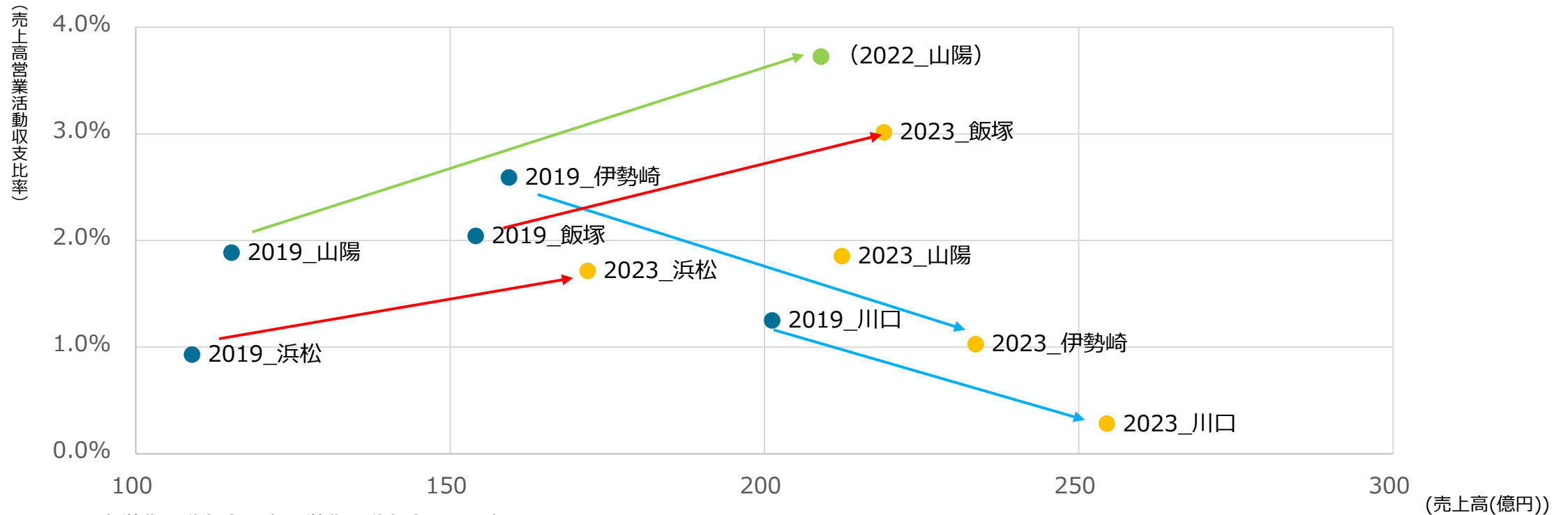


(参考)オートレース場別収支比率の分布

- 新型コロナ禍前と直近の売上高営業活動収支比率の分布をみると、2019（平成31）年から2023（令和5年）に、各オートレース場の売上は増加。
- 一方、売上高営業活動収支比率は飯塚オート場と山陽オート場※は増加しているものの、伊勢崎場と川口場は低下。
- 車券発売チャネルの構成比の変化や開催可能なレース時間帯によって、オートレース場間で、収益率の差が広がっている。

※山陽オートは2023年は走路改修工事の実施により収益が減少しているため2022年と比較

売上高(X軸)と売上高営業活動収支比率(Y軸)の散布図



※売上高営業活動収支比率：営業活動収支÷売上高×100

(資料)施行者収支決算資料を基に車両室試算

収益改善に向けた取組①（外部環境に対応するためのビジネスモデルの見直し）

【川口オートレース場の例】

川口オート場では、収支改善に向け、2024年度に以下の取組を実施。

収支改善の取組	取組内容・効果
コンパクトな場外車券売場への対応	場外発売時の開放エリアについて、令和6年4月からよりコンパクトな場運営に向け、入場門や発売所の見直しを実施。 → <u>清掃・警備委託料の削減、光熱水費の削減</u>
本場開催等のコスト削減に向けた対応	コンパクトな場運営に向け、警備、清掃、設備（電気・空調）の人員配置やお客様送迎体制を見直し、コストを削減。 → <u>委託料の見直し</u>
開催日程の場間不均衡の改善	他場より多く請け負っている収益性の低い普通開催の日数減と収益性の高い無観客ナイトレースの日数増のため、開催日程を調整。 → <u>収益力の改善</u>

収益改善に向けた取組②（業界のビジネスモデルの見直し）

昨年の産業構造審議会車両競技小委員会で提示されたオートレースにおけるビジネスモデルの見直しに係る議論も受け、オートレース業界ではオートレースの事業体制の見直しの検討を開始。

①外部環境に対応するためのビジネスモデルの見直し

（主な検討項目）

- ・ 昼・ナイターの適切な開催日程の編成
- ・ 併売時間の解消 など

②開催枠組みの変更など業界のビジネスモデルの見直し

（主な検討項目）

- ・ 普通開催と別枠開催の平均賞金の均等化
- ・ 全開催の競走成績参入、あっせん日数計上 など

オートレースにおけるカーボンニュートラルに向けた取組

【これまでの取組】

オートレース業界では、これまでにCO₂排出低減やカーボンニュートラルに向けた取組として、現行エンジンに排出ガス低減技術を付加する検証や電動バイクの実証研究、カーボンニュートラル燃料（バイオエタノール、合成燃料）の利用可能性調査など、様々な対応オプションを検討。

【現在の検討の方向性】

各対応オプションについて、費用対効果や市場導入時期などを見極めながら採否を判断していく必要があるが、現時点では、現行エンジンからのスイッチングコストが低く、また、現行エンジンに与える影響も大きくないものと見込まれる合成燃料の導入が有望なオプションの一つ。

【合成燃料導入に向けた今後の課題】

合成燃料（e-fuel）は、商用化時期が2030年以降とされており※、第3次中期基本方針の期間内（2026～2031年）に入ってくることから、業界においては商用化までの間に、各オートレース場や養成所における燃料供給上の課題（運搬、保管、給油等）、現行エンジンへの影響の調査（ベンチテストなど）、燃料供給事業者からの調達可能性見込みなどについて、現場への実装に向け、エンジン供給者や燃料供給者等と調整を行っていく必要。

※資源エネルギー庁「合成燃料(e-fuel)の導入促進に向けた官民協議会」2023年中間とりまとめ中の「合成燃料(e-fuel)の商用化に向けたロードマップ(改訂版)を参考に記載

(参考) オートレース場の改修状況と見通し

売上低迷期において施設改修を十分に進められてこなかったことから、足許でも引き続きオートレース場の施設・設備を改修する動きがみられる。

オートレース場	改修状況
伊勢崎オート	1976年のオートレース場開設当初から設置されている選手宿舎を大規模改修し、オートレース業界として初の選手個室宿舎を実現。2025年12月竣工予定。
川 口オート	現在の来場者数状況を踏まえ、老朽化した左翼観客スタンドを解体し、周辺環境への影響緩和のため、防音壁を設置。
浜 松オート	2024年度までに、メインスタンド改修や入場門建替工事、競走路改修工事を実施。選手宿舎等の改築工事に向けて基本実施設計に着手。
山 陽オート	28年ぶりに競走路の全面改修を実施（2023年度）、2025年度は周回通告表示装置の全面改修を予定
飯 塚オート	1967年に現在地に設置されて以降初めてのメインスタンドの大規模改修を実施中。2025年6月完成予定。

【飯塚オート スタンド改修】



【伊勢崎オート 選手宿舎改修】



【川口オート 防音壁の設置】

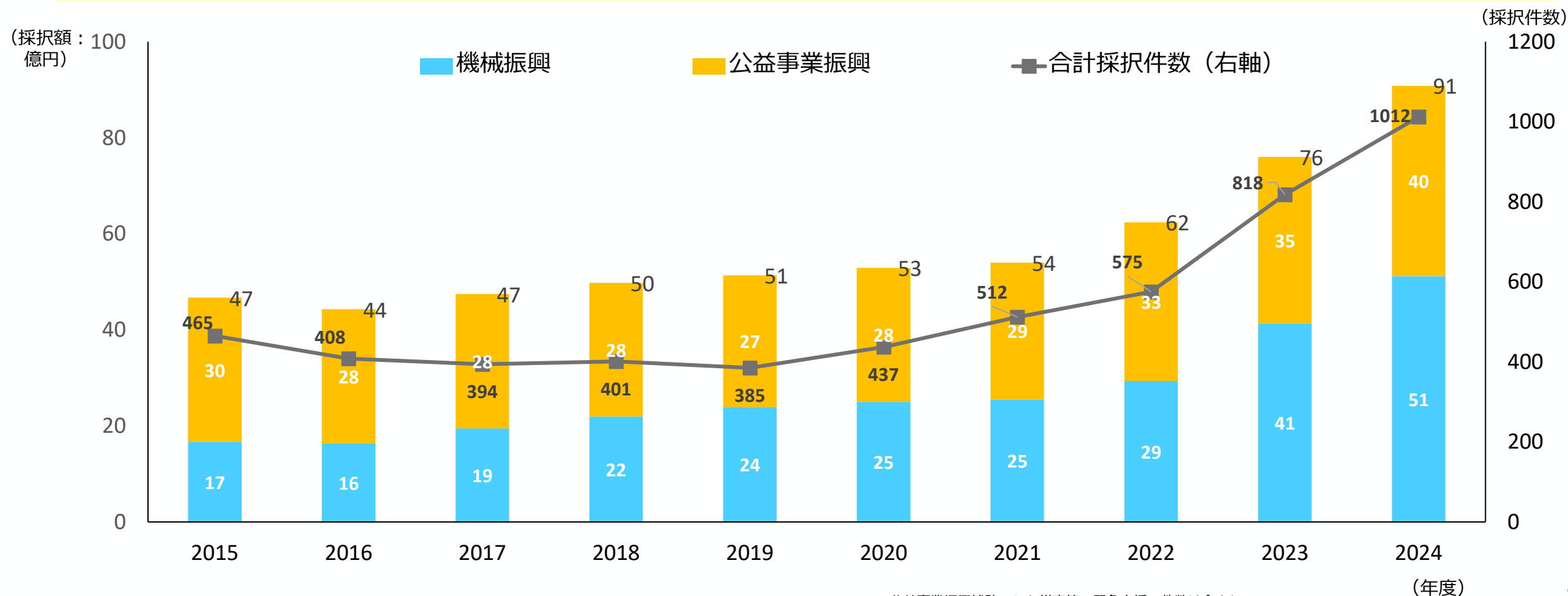


(出典) : 公表情報を基に車両室にて作成

- 1.競輪の状況について
- 2.オートレースの状況について
- 3.競輪・オートレースの補助事業について**
- 4.ギャンブル依存症対策への取組について
- 5.第3次中期基本方針策定に向けて
ご議論いただきたい点

JKA補助事業について

- 競輪・オートレースの施行者は、法律に定められた交付率に応じて売上の一部を振興法人（JKA）に納付。JKAは納付された交付金の一部を財源として補助事業を実施。
- 補助事業の採択額はここ数年の競輪の売上増加の影響もあり増加傾向。
- 2025年度は福祉機器、福祉車両の整備について年度内も公募を行う制度改正を実施。



※公益事業振興補助のうち災害等の緊急支援の件数は含まない。

JKA補助事業の採択件数の内訳（2024年度）

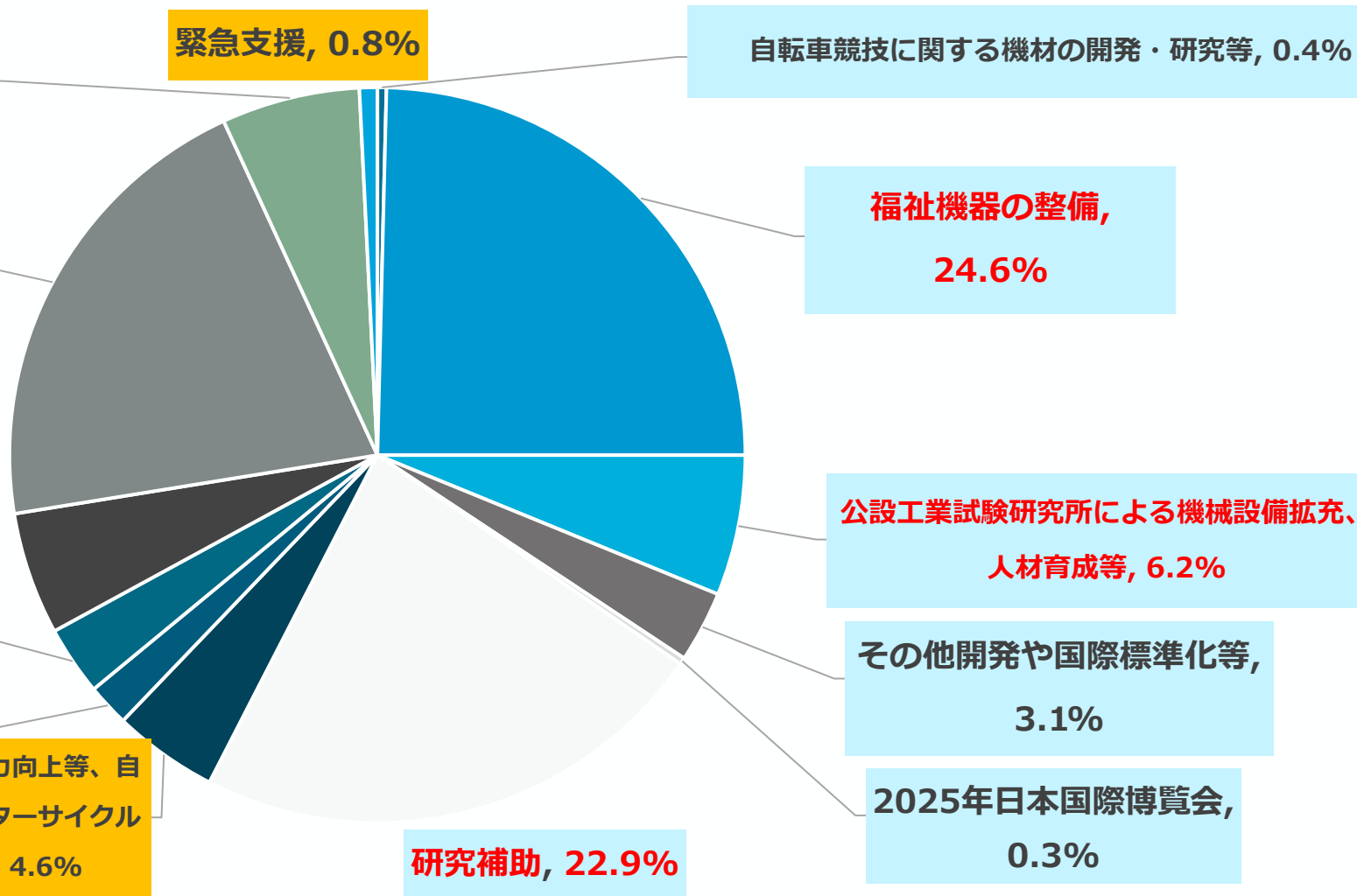
- 大学等の研究補助(22.9%) ,公設工業試験研究所の機器整備等(6.2%) ,福祉機器整備（介護・福祉機器等）（24.6%） ,福祉車両・就労支援機器整備等(20.7%) ,医療・公衆衛生（検診車等）（5.4%）の割合が大きい。

2024年度採択件数
(1,020件)

公益事業振興補助：433件

機械振興補助：587件

※公益事業振興補助のうち災害等の緊急支援の件数を含む。



(参考) JKA補助事業の採択事例

- 機械振興補助事業では、自転車・モーターサイクル・障がい者スポーツやものづくり支援に貢献する事業、公設工業試験研究所等における機械設備拡充や機械振興に資する研究者の研究などを補助。
- 公益事業振興補助事業では、自転車競技の普及促進や施設整備、国内スポーツ競技力向上のための事業、検診車等の整備、小中学校等の生徒による実践的研究活動、ヤングケアラー等を支援する活動などを補助。

機械振興補助の事例

岩壁等の近接調査技術を高度する 6脚ロボット等の開発支援化



山間部の岩壁の安全度調査や都市部のビル等のインフラ点検を高度化すべく、ワイヤ牽引することで斜面を縦横自在に移動可能な6脚ロボットの基盤技術を開発。

公設工業試験研究所への三次元測定装置の導入支援



測定対象物について、縦、横、高さの三方向から、寸法、角度などを測定する装置。機械部品の評価や金型の制作、安全性の試験など全ての分野で必須の測定器を導入。

公益事業振興補助の事例

福祉車両の導入支援



福祉施設の送迎等のため、助手席リフトアップや車いす用スロープなどの機能を備えた車両の導入を支援

検診車の導入支援



胃がん検診や肺がん検診などの受診率向上と疾病の早期発見を可能とする検診車の導入を支援

- 1.競輪の状況について
- 2.オートレースの状況について
- 3.競輪・オートレースの補助事業について
- 4.ギャンブル依存症対策への取組について**
- 5.第3次中期基本方針策定に向けて
ご議論いただきたい点

ギャンブル依存症対策への取組

- 競輪・オートレース業界では、ギャンブル等依存症対策推進基本計画（第2期計画は令和4年3月25日閣議決定）に基づいて、依存症対策を着実に実施。

競輪・オートレース業界における依存症の発症、進行及び再発の各段階に応じた防止及び回復のための取組

第1 広告・宣伝のあり方

- **広告・宣伝に関する全国的な指針を踏まえた自主的な指針を策定**同指針を遵守した広告・宣伝に努めるよう要請
- SNSや、インターネット、ポスター等各種媒体を効果的に活用し、ギャンブル等依存症に関する**普及啓発活動を実施**。

<注意喚起標語>

ステッカーの発券機等への貼付



**車券の購入は20歳になってから。
競輪は適度に楽しみましょう。**

車券の購入にのみり込んでしまう不安のある方は以下までお問合せください。
専門スタッフ(臨床心理士)によるカウンセリングを行っております。

競輪とオートレースの売上の一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。

公営競技ギャンブル依存症カウンセリングセンター

0120-321-153

予約受付時間：平日9:00～17:00（ご利用になる場合は、ご予約をお願いします。）

第2 アクセス制限等

- 本人・家族申告による**レース場へのアクセス制限**を着実に実施中。
- **インターネット投票における本人・家族申告によるアクセス制限**を着実に実施。

<ネット投票アクセス制限(令和7年3月末時点)>

競輪 本人申告 2,545件、家族申告 49件
オートレース 本人申告 394件、家族申告 9件

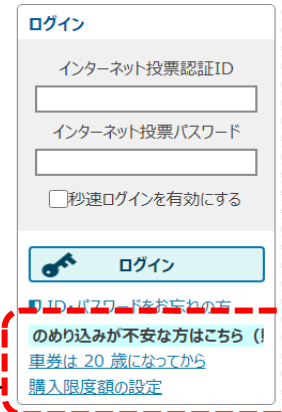
- **インターネット投票における購入限度額設定システム**を着実に実施。

<購入限度額設定(令和7年3月末時点)>

競輪 64,047件 オートレース 2,090件

→更なる活用のため視覚的に訴える方策も実施。

ログイン画面での注意喚起 (KEIRIN.JP)
流れる文字とページへのリンク



第3 相談・治療につなげる取組

- 競輪・オートレース施行者及びJKAは相談窓口を設置し、相談に対して臨床心理士がカウンセリングを行う**公営競技ギャンブル依存症カウンセリングセンター等を紹介、治療につなげる取組を実施**。

- 早期発見・早期介入のための**セルフチェックツール**（右図）をHPで周知。

- JKAでは「**ギャンブル等依存症対策に関する支援活動**」及び「**ギャンブル等依存症に係る研究**」に対し**経済的支援を推進**。

<補助事業採択件数(令和6年度)>

大学の研究の補助 3件



第4 依存症対策の体制整備

- 対策を推進する体制整備として、競輪ギャンブル依存症対策推進会議及びオートレースギャンブル依存症対策推進会議を設置して推進。

- すべての競輪場・オートレース場において**依存症対策担当者を選任**するとともに問合せ**対応マニュアル**を策定して実務に当たっている。

- 担当者の依存症に対する知識向上や責務意識の醸成のため、**定期的に職員向け研修を実施**。

<研修実施実績(令和7年2月合同で実施)>

競輪・オートレースの施行者、場外車券売場設置者、インターネット投票サイト運営者等 約180人受講

変更された基本計画における競輪・オートレースのギャンブル依存症対策

- ギャンブル等依存症対策基本法では、ギャンブル等依存症の状況変化を勘案し、また、実態調査の結果や対策の効果に関する評価を踏まえ、少なくとも3年ごとに基本計画に検討を加え、必要があるときは見直すこととされている。
- この度、ギャンブル等依存症対策推進基本計画の変更について閣議決定がなされた（令和7年3月21日）**今回の基本計画見直しでは、これまでの対策を継続しつつ、インターネット投票の普及等を踏まえた対策の強化がなされた（赤字部分が主な変更点）**

第1 広告・宣伝のあり方

- 広告・宣伝に関する自主的な指針を**適切に運用**。**販売委託先業者も含めた関係者に周知徹底しつつ、過度に射幸心を煽ると思われる表現等があった場合には速やかに対応するなど実効性ある運用を行う。**
- 他の公営競技と連携しつつ、インターネットをはじめ各種媒体を効果的に活用し普及啓発活動を実施。また、**各種の取組みが広く認識され、利用へとつながるよう、効果的な手法を検討し、普及啓発の強化を図る。**

<注意喚起標語>

「車券の購入は20歳になってから。競輪(オートレース)は適度に楽しみましょう」

<啓発週間における取組 5月14日～20日>

第2 アクセス制限、ネット投票普及への対応等

- 本人・家族申告によるレース場へのアクセス制限を着実に実施。
- インターネット投票における本人・家族申告によるアクセス制限を着実に実施。
※アクセス制限制度についてメール等での申請受付など利便性向上のための取組を検討
※アクセス制限制度を相談機関等における相談で積極的に紹介してもらうなど**連携を強化**。
- インターネット投票におけるアクセス制限制度・購入限度額設定の活用を促進するとともに、**インターネット投票データの分析等を行い効果的な対策を検討**。
- **クレジットカード等後払い決済**について見直しを求められていることを踏まえ効果的な対策を検討。なお、クレジットカード等を利用した後払い決済の利用限度額設定についても検討。
- 20歳未満の車券購入禁止を徹底。

第3 相談・治療につなげる取組

- 施行者等は、メール等の活用により相談窓口を利用しやすくするとともにサイト上での分かりやすい表示など**相談窓口を積極的に周知**。施行者は各地域の包括的な連携協力体制に積極的に参画。
- 早期発見等のための**セルフチェックツール**の周知、効果検証を行い必要に応じて改善。また、**ツールからアクセス制限に繋げる仕組みの検討**。
- JKAでは「ギャンブル等依存症対策に関する支援活動」及び「ギャンブル等依存症に係る研究」について補助事業方針に明記、補助事例を紹介するなどして自助グループや研究への**経済的支援を推進**。
- 公営競技ギャンブル依存症カウンセリングセンターでの相談事例の積上げ・分析

第4 依存症対策の体制整備

- 担当者の依存症に対する知識向上や理解を深めるため、**定期的に競輪・オートレース事業関係者向け研修を実施**。
- 施行者等は、規程に基づく依存症対策を着実に実施。推進会議において課題等について検討し必要に応じて規程の内容を改善するなど、一層の取組強化を検討する。

- 1.競輪の状況について
- 2.オートレースの状況について
- 3.競輪・オートレースの補助事業について
- 4.ギャンブル依存症対策への取組について
- 5.第3次中期基本方針策定に向けて
ご議論いただきたい点**

第3次中期基本方針策定に向けてご議論いただきたい点

- ✓ **競輪事業・オートレース事業の持続的な事業運営について**
(競輪場・オートレース場の施設・設備等改修、事業の基盤となる基幹システムの改修更新への対応など)
- ✓ **競輪場・オートレース場の施設等改修の流れの中で留意すべき点について**
(競輪場・オートレース場に求める役割・機能等)
- ✓ **競輪・オートレースにおける新たな企画や施策の取組に対する展開方法について**
(例えば、競輪男子インターナショナルの開始やオートレース車載カメラの活用といった企画や施策の展開)
- ✓ **競輪事業・オートレース事業のパブリックリレーションについて**
(認知度やイメージ向上、地域社会や地域の資源（観光資源、スポーツ団体、地元メディア等）との関係構築等)
- ✓ **競輪・オートレース事業を通じた社会貢献について**
 - 補助事業の仕組みについて（事業評価や社会貢献効果の発信、社会的認知の浸透、支援対象など）
 - 施行自治体や選手、関係民間事業者により行われるそれぞれの社会貢献への期待について
- ✓ **社会的責任や人権尊重への意識の高まりについて**
(ギャンブル依存症対策、コンプライアンス、ハラスメント、ジェンダー等への対応)

(参考) 競輪・オートレース事業の基幹システム (イメージ)

- 競輪とオートレースは、それぞれ事業運営に必要な様々な情報を管理する基幹システムを運用。
- 基幹システムは概ね5年～7年周期で更改する必要があり、競輪・オートレース事業を運営するため、施設や設備と同様に定期的な投資が必要。

